

『不登校を考えるフォーラム』体験者が不登校について語る!!

去る 11 月 16 日(土)に県立総合教育センターにおいて、不登校体験者の報告や情報交換を通して不登校問題を知り、語り・考え、その解決を探る「不登校を考えるフォーラム」(県適応指導教室連絡協議会)が開催された。

フォーラムには不登校に悩む児童生徒、保護者、教諭など約 450 人が参加した。金城孝次サイコセラピーオフィス所長の金城孝次氏がコーディネートを務め、4 人の不登校体験者が報告した。森屋さんは「時期が来たら立派にやっていけるようになります。何力月かかるかわからないけど、手を貸したり、励ましたり、愛情を持って気長に傍で見守ってあげてください。」と述べた。また、當間さんは「小学校のころに学校へ行けなくなった時、母親から『先のことは考えなくていいから、ゆっくり休んで』と言われ、嬉しかった」と、保護者の理解の重要性を強調した。砂川さんは、「30 人 31 脚」「ドッジボール大会」など、担任から行事への参加・声かけがあり、行事を通してクラスのみならず仲良くなれたことや青少年センターなどに通い、勉強を続けた経緯などを明かした。センターや学校の先生の「自分のペースで頑張きなさい」という励ましに「別に焦ったりしないでいいんだ、今できることを一つ一つやっていけばいい」と思うようになったと述べた。上間さんは、様々な苦難を乗り越えた経緯を切々と訴え、周囲の理解の大切さを強調した。不登校時、怖くて他人の顔をまともに見ることの出来なかった自分が、大勢の参加者の前で自分の体験を語れるまでになったこと、現在、大学に進学し、カウンセラーという夢に向かって、前向きに頑張っていることなど「人は誰でも変わることができる、やり直しできるんだ」と訴えた。このように不登校を克服した

4 人の報告者が「親のささいな励ましがうれしかった」「いい先生に出会えたことで立ち直った」など経験に基づく解決のヒントを提供した。さらにコーディネーターの金城さんは「自分の立場だけでもものを言うのではなく、きちんと耳を傾け、子ども・児童生徒の理解に努めて欲しい」と保護者、教育関係者らに助言した。

<参加者の感想>

■ 体験報告を聞き、不登校児を持つ親として、本当に子どもを信じ前向きに生きて行きたいと思います。顔で笑って心で泣いていた自分が今日このフォーラムで元気づけられた子どもと共に頑張っていこうと強く思いました。

■ 不登校の子どもたちの気持ち(本音の部分)が聞けてとても参考になりました。現在関わっている子に対し、これまでのことを反省させられ、これからの関わり方を考えて行くきっかけになりました。

■ コーディネーターの金城先生の温かい言葉の進行で発表者 4 人の気持ちが開放されて発表できるのがよく伝わりました。不登校児を持つ親として参加して良かったと思います。時を待ち、子どもの長い人生を見守って行きたいと思います。



***** 目 次 *****

- 「不登校を考えるフォーラム」 (1)
- 「地域の教育資源」活用の現状と課題 (2~3)
- 「IT 語学活用 1 か月研修」& アンケート (4)
- 「へき地・複式教育」 (5)
- 「2002 年度短期研修」 (6)
- 「体験学習教室」 (7)
- 「県知事訪問」~センタービックス~ (8)

✧ 離島・北部へインターネット配信

離島・北部地域へは、IT 教育センターの支援により、フォーラムの様子をインターネットで配信した。遠隔地でも、リアルタイムで視聴することができた。

次年度も、IT 教育センターの機能を活用して情報を提供します。

執筆者 川満 健



****も く じ****

- 「不登校を考えるフォーラム」 (1)
- 「地域の教育資源」活用の現状と課題 (2～3)
- 「IT 語学活用1か月研修」& アンケート(4)
- 「へき地・複式教育」 (5)
- 「2002 年度短期研修」 (6)
- 「体験学習教室」 (7)
- 「県知事訪問」～センタービックス～ (8)

テーマ 「地域の教育資源」活用の現状と課題

- 平成 12・13 年度のアンケート調査を通して -



発表者 黒木 義成

はじめに

今日、学校現場では、いじめや不登校、校内暴力、援助交際等の問題が顕在化し、これからの学校教育の在り方について、総合的な立場から検討が始まっている。

現在、小・中・高等学校・特殊教育諸学校では、このような教育課題の解決に向けて特色ある教育実践を行っている。

これからの子どもの教育を考えると、学校教育を子どもにとって、より価値ある場にしていくために、地域や家庭との連携をこれまで以上に積極的に推進していくことは、重要なことである。そして、そこに「開かれた学校づくり」の理念があり、外部講師の起用や教育ボランティア、地域の教育施設等のいわゆる「地域の教育資源」活用の意義が出てくるのではないかと考えた。

本研究は、平成 12 年度・13 年度の 2 ケ年間で、「地域の教育資源の活用」に関して、予想される課題（表 1）について調査研究し、その結果を学校、行政に提示し、今後の学校教育の在り方について提言したものである。

特に、平成 12 年度は、学校と市町村教育委員会への考え方をまとめ、平成 13 年度は、児童と保護者の意識調査を行い、それぞれのアンケート結果をもとに分析・考察を行った。

以下、2 ケ年間の研究のまとめをグラフをもとにまとめてみる。

人材活用に伴う予算措置

人材確保(手段)

教職員の共通理解

保護者の学習への参加

教育資源の明確化

* ~ に関する課題は、県教育庁義務教育課がまとめたアンケートから教育センターとして集約したものである。

表 1 「人材活用の課題」

1 人材活用に伴う予算措置

予算措置については、学校・市町村教育委員会とも予算措置が望ましいと考えていることが把握できた。特に、「報償費」や「交通費」等の予算化を望んでいることが調査から明らかになった。

2 人材確保(手段)

人材の確保については、各校種とも「人材バンク」を作成していることが明白になった。市町村教育委員会も扱う部署は異なっているが、ほとんど「人材や施設マップ」の作成を行っていることが把握できた。

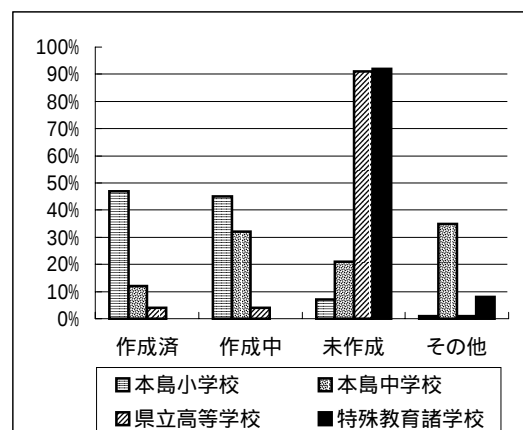


図1 人材バンク作成状況(12年度)

14 年度現在は、どの校種とも 100%近いバンクの作成ができていると思われる。今後は、その活用状況を把握することが必要である。

3 教職員の共通理解

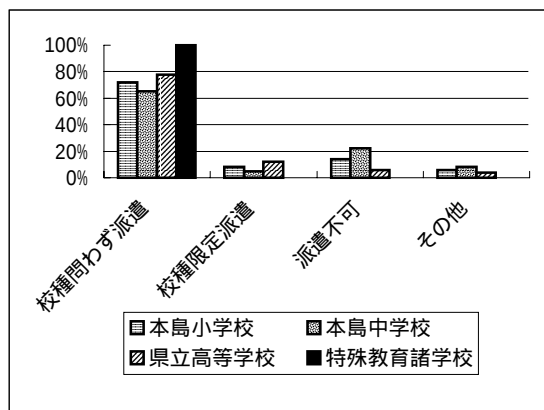


図2 教職員の他校種への派遣

これからの学校教育を考える際、他の校種へ教職員が出かけていき、自分の専門性を生かした授業実践を行うことも大切かと思われる。図2は学校長の職員の派遣の考えである。どの校種とも積極的に派遣する方が望ましいと考えている。但し、時間の確保については、今後検討していく必要があると考えている。

4 保護者の学習への参加

保護者が学校教育へ参加、協力していくことが、今後ますます必要になってくることが予想される。

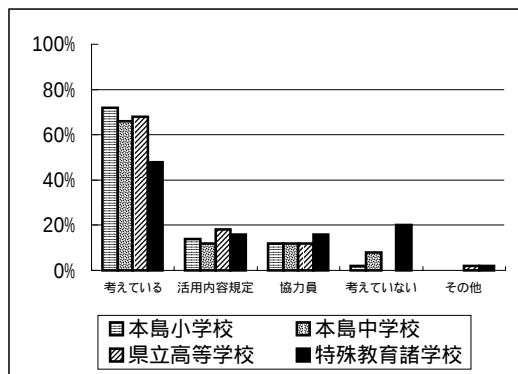


図3 保護者の授業参加への考え

図3でも明らかのように、保護者も授業への参加協力することを望んでいることがわかる。しかし、参加目的や方法、役割など事前にきちんとした打ち合わせを行うことが必要である。

また、今後、保護者と授業づくりの段階から一緒になって考える参画の方向性を模索していくことも大切になってくるかと思われる。学校と家庭、地域社会との連携・協力が今後ますます

要求されてくる。

5 教育資源の明確化

「地域の教育資源」とは、その学校にとって教育的に価値のある「ヒト・モノ・コト」であり、何でもありではない。各学校の実態に合わせた教育資源を確保していくことが大切である。

6 成果と課題（アンケートのまとめ）

< 成果 >

(1) 地域人材を活用した授業は、児童一人一人に対して興味・関心をもたせている。

わかりやすい、面白い話が聞けるなど「わかる授業」「楽しい授業」に有効である。

(2) 児童は、「スポーツ指導者」への興味・関心が高く、それらの人々との授業や課外活動等を望んでいる。

(3) 地域の教育施設の活用について、社会教育施設の他に、地域にある「田畑、川、海」などのフィールド学習に対して関心を示している。

(4) 地域にある社会教育施設については、ほとんどの児童が、その活用を望んでいる。

(5) ほとんどの保護者が、授業において、地域人材や施設の活用をすることに前向きである。

(6) 保護者は、授業に参加するというよりも学校や学級で行われるさまざまな行事等への協力などを望んでいる。

(7) 将来的には、保護者も授業に関わっていく方がよいと考えている保護者が多い。

< 課題 >

(1) 地域人材や教育施設を活用していく際、子ども一人一人に、活用する意義を実感させることが大切である。

(2) 保護者は、学校への教育支援に対して前向きであるが、その目的や計画などを共通理解する場が必要である。

(3) 外部の人とかかわる評価についての共通理解を行う必要がある。

おわりに

子ども一人一人に「学ぶ意欲」や「学び方」を身に付けさせるためには、今後、学校外の教育力を積極的に取り込み、教育課程に位置づけていくことが大切になる。

IT 語学活用 1 か月研修を終えて

IT 教育課指導主事 村吉政松

国際化や情報化に備えて教職員の IT スキルと英語力の向上を同時に図ることを目的にして「IT 語学活用 1 か月研修」を実施した。9 月・10 月は中学校・高等学校教諭、11 月は小学校教諭、計 108 人が研修に参加した。IT 関連の講義では、ワード、エクセル、ドリームウィーバー、フォトショップ、プレミア等を扱い、オールイングリッシュで実施した。特に、英語のネイティブスピーカーの講師による講義は IT と英語を一石二鳥で向上させる内容になったのではないかと感じた。講師の一人沖縄国際大学のダグラス・ドライスタット助教授による講義を通じて、HTML に魅了された先生方が数多くいた。また、講義の他に、サイオンコミュニケーションズの David Shen さんや沖縄県立盲学校の與座健作先生の講演等もプログラムの中に取り入れた。「A computer is a useful tool, but it cannot provide morality, affection ...」というような内容の Shen さんの言葉や、視

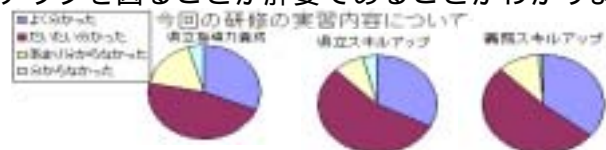
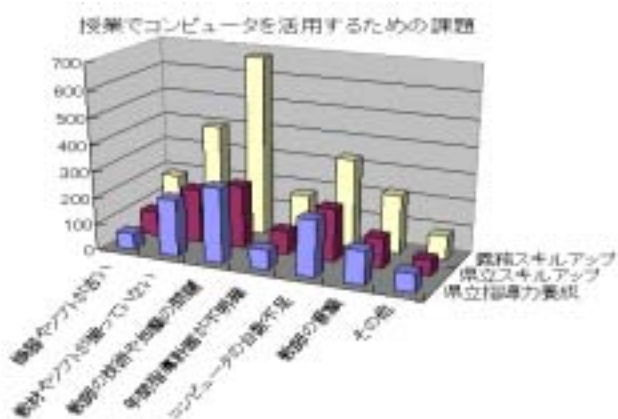


覚障害者でありながらコンピュータを駆使する與座先生の姿から、人間としてどうコンピュータに関わっていかなければならないのか、深い示唆を得ることができた。さらに、南アフリカから来た A L T の講演や本教育センターの A L T との議論を通じて、異文化理解とは何なのか、深く考える機会も得た。

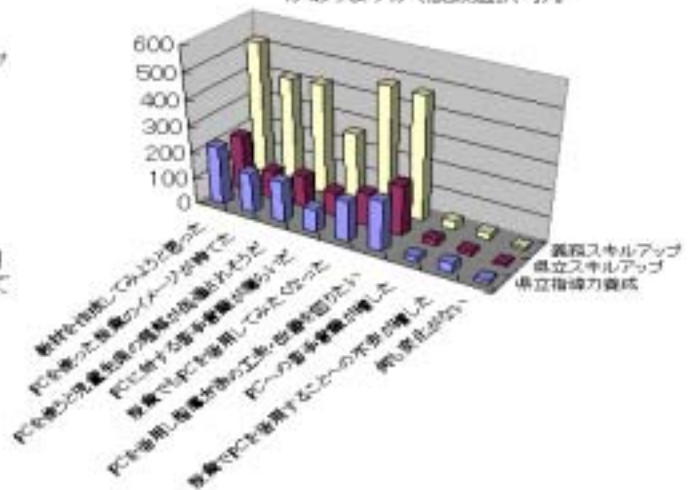
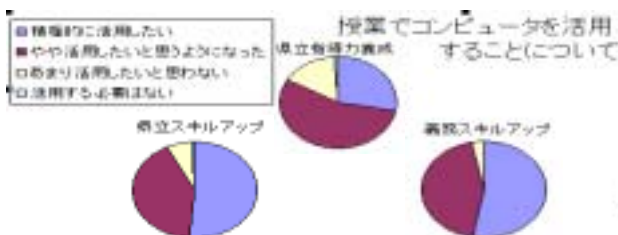
IT 教育研修アンケートの集計

IT 教育課指導主事 坂名城功

受講者のアンケートの中からいくつかを紹介します。指導力養成講座は「プレゼンテーションソフトによる教材作成講座」を、スキルアップ講座はその他の講座を指しています。アンケートの結果から、コンピュータの授業への活用には教師のスキルアップを図ることが肝要であることがわかります。



今回の講座を受講する前と後で変化しましたか(複数選択可)。



研究室だより

へき地・複式教育の充実を図るために

教育経営研修課 へき地教育研究室

1 沖縄県のへき地指定校、複式設置校

平成 14 年 5 月 1 日現在、県内の公立小学校は 280 校、中学校は 166 校で、合計 446 校となっています。その中でへき地の指定を受けている学校は、小学校 103 校、中学校 76 校、合計 179 校で、小・中学校の約 40 % がへき地の学校です。宮古・八重山地区は、全小中学校が 3 級地以上のへき地指定校になっています。

複式学級を有する学校は、小・中学校の約 20 % に当たる 88 校です（小学校 66 校、中学校 22 校）。国頭・八重山教育事務所管内に多く、特に八重山の小学校は、70 % 近くが複式学級のある学校となっています。

2 県立総合教育センタ - の取り組み

へき地・複式教育の充実を図るため、本センタ - では、短期研修の実施（本島・宮古・八重山）、調査研究の充実や複式学習指導資料の発行、各学校との情報ネットワーク化を推進し、へき地教育の情報センタ - としての機能の強化に努めています。また、与那城町立宮城小学校と連携を組んで、へき地教育研究員の研修員（離島校勤務）の検証授業に協力していただき、へき地・複式教育の実践力を高めるように努めています。



宮城小学校(連携校)における検証授業

第 5・6 学年社会科「地図に親しもう」

指導者 石垣市立平真小学校教諭 大浜 譲
「児童の地図を読み、活用する力を培う学習指導」の研究を、複式指導の地図学習において実践しました。

3 移動教育センタ - の実施

沖縄県の地理的特性を考慮し、本センタ - の事業を離島・へき地へと拡大しています。

平成 14 年度 宮古地区講座

小学校小規模・複式学級担任講座	
小・中総合的な学習講座	特殊教育講座
小学校生活科講座	小学校社会科講座

平成 14 年度 八重山地区講座

小学校複式学級担任講座	特殊教育講座
小・中パソコン教育講座	小学校社会科講座
小・中総合的な学習講座	小学校生活科講座



小学校生活科講座「紙すき実習」の様子

本センタ - では、宮古・八重山地区の先生方と共同研究を行っています。両地区それぞれ 3 研究部会を設置し、担当主事と共同研究員（学校現場の先生）で研究を進め、検証授業を公開しています。また、研究の成果は「実践事例集」としてまとめ、両地区の全小中学校へ配布しています。

平成 14 年度 宮古地区研究部会及び研究員

複式教育部会(小)	池間小学校	砂川宗雄
	池間小学校	平良吉嗣
	宮島小学校	清水貴子
英語活動部会(小)	伊良部小学校	永松才易
	南小学校	天久 康
	平良第一小	多和田志真子
学級経営部会(中)	砂川中学校	知念節子
	砂川中学校	徳嶺浩明
	砂川中学校	斉藤康晴

平成 14 年度 八重山地区研究部会及び研究員

複式教育部会(小)	富野小学校	西島本貴子
	野底小学校	城田 聡
	川原小学校	崎原永克
英語科部会(中)	石垣中学校	渡口尚子
	石垣第二中	内盛美貴
	伊原間中	仲宗根希
数学科部会(中)	石垣中学校	塩川 斉
	石垣中学校	角 正治
	石垣第二中	與那嶺聡

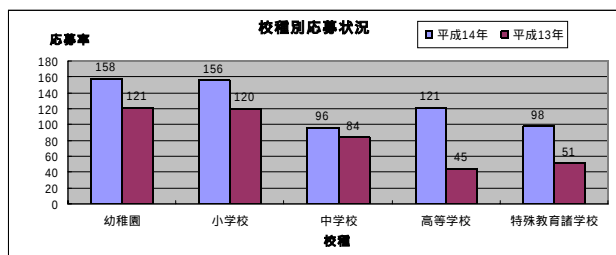
新教育課程スタートの年 短研応募者急増 -教育改革は教師の意識改革から-

完全学校週5日制にともない
短期研修講座に対するニーズが高まる

学校教育は、今新たな時代を迎えております。子ども達に基礎・基本をしっかり身に付けさせ、自ら学び、自ら考える力を育み、「生きる力」「確かな学力」をどう育てるか、教師の力量が問われています。教師一人一人がこの改革の趣旨を正しく理解し、自ら課題をもち、自ら学ぶ教師としての意識改革が求められています。

当総合教育センターでは、教師の豊かな人間性と優れた専門性を培うための研修として短期研修講座を開設しています。今年度は、応用講座で 92 講座、自主講座で 28 講座を開設し、全体で 2311 名の応募がありました。

この短期研修への応募状況については、下記の表が示す通り、平成 14 年度に入って応募者が急増するという大きな変化が見られました。その背景には、先生方の意識の高揚はもちろん、今年度からはじまった完全学校週 5 日制の実施があると考えられます。こうした短期研修への新しいニーズに応えるべく次年度も一層の充実を図るよう努力したいと思います。多くの先生方の短期研修講座への応募をお待ちしています。



(短期研修講座の中から)

- 動物バイオ技術講座 -

動物バイオに関する専門的な知識・技術の習得を目的に「動物バイオ技術講座」が 3 日間の日程で実施されました。県内の農業高校から主に畜産分野の担当者が参加し、「牛の体外受精技術」について実験・実習を通して学習しました(写真)。その成果として、これまでに産業教育課における

生徒実習では牛の卵子や精子の取り扱いに関する実習が行われており、近年農業高校における体外受精技術による子牛の誕生も間近かではと楽しみにしています。

(受講者の感想)

- ・ 講座は実験・実習を中心とした内容で授業にすぐ実践できる内容であったのでよかった。
- ・ 以前に同じ様な内容の講座を受講したが、試薬類をはじめ、技術は日進月歩で進歩していると感じた。



- 小学校音楽実技講座 -

三線の実技研修を通して指導力の向上を図ることを目的に、琉球古典音楽安富祖流師範浜元盛爾先生を講師に、午前中は三線の持ち方や弾き方を学び、午後は安波節、秋の踊り、安里屋ユンタ等を練習しました。先生方は、時を忘れるほど真剣に練習していました(写真)。また、今年から実施された「新学習指導要領音楽科の解説」と「郷土音楽指導の方向性」についても講義をしました。

(受講者の感想)

- ・ 郷土の音楽や楽器についてもっと知りたい。
- ・ 三線は簡単に弾けたが歌が難しい。
- ・ 工工四の読み方がわかってうれしい。



磨け感性

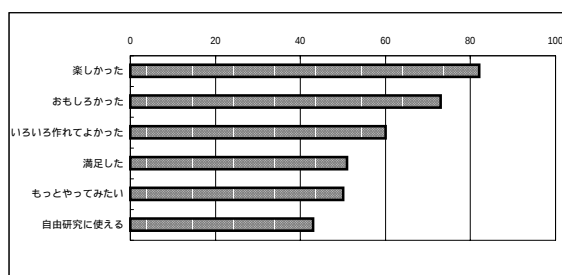
育てよう未来の科学者

大好評！ 体験学習教室

今年度から、完全学校週五日制が導入され、これまで以上に体験的活動の場の充実が求められています。その要求に応えようと、当センターにおける「体験学習教室」も今年度は「たのしい体験教室」「親子星空教室」をはじめ 24 の講座を開設しています。今年度の参加者はすでに 2,544 人に達し、多くの子供たちが日頃は経験ができない多様な活動を満喫し、体験を通して自ら学ぶ楽しさを実感しています。また、今年度の「おもしろ科学教室」は、より多くの子供たちに科学の不思議やおもしろさ、もの作りの楽しさを体験させようと国頭、中頭、島尻、離島の各地域に出向き講座を行っています。さらに、この「おもしろ科学教室」では地域における指導者を育成しようと、各地区の教育ボランティアを募集し、地域と連携した講座を開催しています。これまでの講座の教育ボランティアは延べ150人に上り、地域の人材育成においても好評を得ています。

受講者の声より

- あっという間の2時間でした。楽しくて時間を忘れて熱中しました。スーパースライム作りが一番楽しかった。
- 空気を抜くとどうしてマシュマロが膨らむのかとっても不思議でした。もっと大きくして食べようと思ったけど、あっという間に小さくなっちゃった。
- 親子で楽しみました。夏休みの自由研究に活かしたいとおもいます。



たくさんかき混ぜて、
僕だけのスーパースライムを作るんだ！
(スライム)



雲ってこんなふう
にできるのか……。
(雲を作ろう)



実験するのっておもしろいなあ……。
(フォルトで染めよう)

《開設コーナー名》

バランスとんぼ・スライム
あれこれ虫・不思議なコマ・ホバークラフト
チョコレートで染めよう・プラ板で遊ぼう
風船にのろう・パックとんぼ・雲を作ろう
紙コップ顕微鏡・からくりひも・折り染め
マシュマロを大きくして食べようと思ったけれど
キュー・タラー・ベトー・ポタポタ・・・

今年度の出前講座

「おもしろ科学教室」

- 6/20 北谷第二小学校
- 8/3 北谷町中央公民館
- 12/7 金武町立体育館
- 12/14 嘉手納町立中央公民館
- 12/21 与那原町立与那原小学校
- 1/11 久米島海洋センター

B i G ニュース！

 **稲嶺恵一県知事** IT教育センター，産業技術教育センターを視察。

11月17日に稲嶺恵一知事がIT教育センターと産業技術教育センターを訪れた。IT教育センターではデジタル学習教材を作成する教育コンテンツ工房，小学校の教師が文書作成やインターネットの活用法をすべて英語で学ぶIT語学活用一カ月研修の様子を視察した。



産業技術教育センターでは農業（バイオ生産システム，分析システム），工業（自動生産システム，通信・制御，マルチメディア）商業（ビジネスシステム）など各分野の研究室に配備された高度情報機器および先端技術装置等の整備状況，そして教員研修や生徒実習の状況などについて担当主事から説明を受けた。



「食草ホウライカガミの叫び」

理科研修科 大湾 宏

最近、「オオゴマダラの幼虫を育てたのですが、食草が足りなくなっていました。葉を分けてくれませんか」との電話の問い合わせが研究室に何度かあります。鉢植えの食草に卵をたくさん産ませて飼育したが、幼虫たちが成長するにつけ食欲が旺盛になりホウライカガミは

センタートピックス

茎だけになってしまったそうである。オオゴマダラの飼育でホウライカガミの知名度も高くなったものの肝心の食草についてはあまり知られてないのが現状のようです。

ホウライカガミは海岸沿いの岩礁地に生える性多年生草本です。ゴツゴツした岩には少しの土しかありません。日照りが続けば真っ先に水分が奪われ、台風が近づけば潮風がようしやなくなたたきつめます。ホウライカガミは植物にとって条件の悪い場所に根を下ろしているようにおもわれます。しかし、葉が厚い皮質になったり、枝に土が触れればすぐに根を下ろすことでこれらの難題を乗り越えています。また、種にも不思議な力があり、海水や雨水が溜まったゴツゴツした小さな岩のプールに種が落ちて発芽することもできるのです。

このようなホウライカガミの様子から次の3通りの増やし方が考えられます。

< 種子で増やす >

絹毛をつけた種をビニール袋に集め乾燥させ、播種を行った後、軽く土をかぶせます。水分は常にきらさないことがポイントです。

< 挿し木で増やす >

挿し木に使う枝は節と節の間隔が狭く節が多いものを使うといいでしょう。土は細かなバーミキュライトを使い水やりをていねいに行うことです。

< 取り木で増やす >

枝に土やコケを巻きつけることで節部から簡単に発根する。1～2ヶ月では移植ができる。ペットボトルを工夫して行うと良い（写真）
護岸工事で岩場が少なくなり住みかを追われ、オオゴマダラの食草として注目を浴び乱獲されたホウライカガミ達は「もっと、私のことを知ってください」と叫んでいるようでもある。

